

トップアスリートへの挑戦 第12回ひろしまクロスカントリー大会

 **REPORT 4**

道後山高原クロカンパークで8月20日、第12回ひろしまクロスカントリー大会が開催されました。

今回は、宮城県から沖縄県までの28都府県から2165人の競技者がエントリーしました。

日本長距離界トップレベルの実業団に所属する12人の招待選手をはじめ、北京五輪マラソン日本代表の佐藤敦之選手や油谷繁選手など多くの有名アスリートとともに、1歳5カ月の幼児から87歳の高齢者までの2007人が、1キロから8キロの5コースに分かれて挑戦。コースの傍では多くの観客が選手に熱い声援を送っていました。

当日は小雨が降る少し肌寒い天候でしたが、夏場の



▲スタートの合図で飛び出す選手

レースとしては最高のコンディションとなり、6種目36部門中、8部門24人が大会新記録を更新しました。

参加した選手は「実業団の駅伝大会でおなじみの選手と一緒に競技ができ、ゼいたくいな時間を過ごすことができた」「大自然の中で子どもから大人まで参加できるすばらしい大会だった」と話していました。

17年ぶりの水上パフォーマンス よいとこ祭で上野池ボートレース復活!

 **REPORT 5**


▲弁天島橋の下を一斉にスタート

庄原よいとこ祭で8月28日、上野池ボートレースが行われました。

17年ぶりに大復活したこのレースに15チームが出場し、タイムやパフォーマンス、ボートのデザインで競い合いました。

各チームが趣向を凝らした手作りのボートに、それぞれ2～4人が乗り込みレースがスタート。多くの観客が見守る中、漫画のキャラクターや有名サッカー選手などに扮した出場者たちは、船上でダンスを踊ったり、歌を歌ったりと審査員に猛アピール。勢い余って池に落ちたり、オールが折れて棄権するチームが出たりと、観客の笑いを誘い会場を大いに沸かせていました。

華麗なばちさばきで観衆を魅了 太鼓ライブTOJOが開催

 **REPORT 6**

鬼神太鼓と東城町観光振興キャンペーン実行委員会が主催する「太鼓ライブTOJO」が9月17日、東城町老人福祉センターで開催されました。

今年は、「鬼神太鼓」や「口和備神太鼓」、「ひばん婆太鼓」や「神龍太鼓」など県太鼓連盟加盟団体の協演、太鼓と尺八のセッションなどが行われ、華麗な“ばちさばき”に加えて美しい調べを奏でました。

また特別出演として、東城町出身の八房心香(本名／中谷玲子)さんが“南京玉すだれ”を披露。心に響く力強い演奏と絶妙な妙技に子どもからお年寄りまでの約

200人が酔いしれました。

鬼神太鼓代表の今岡誠一さんは「地域の中で太鼓の輪が広がっている。太鼓は誰でも気軽に触れることができる伝統文化の一つ。さらにみんなで練習を重ね来年はより一層迫力あるばちさばきを披露したい」と抱負を語っていました。



▲迫力ある演奏

きみも山ボーイ山ガールになれる 県民の森でファッションショー

 **REPORT 1**

おしゃれに山登りを楽しむ「山ガール」「山ボーイ」向けのアウトドアファッションショーが8月28日、ひろしま県民の森で行われました。

eco涼キャンペーンの一環として開催された「山フェスしょうばら2011」の一企画であるこのイベントに、市内外から約300人が訪れました。

フリーペーパー「広島美少女図鑑」のモデルのほか、公募で選ばれた県立広島大学、庄原格致高校、西城紫水高校の学生・生徒ら5人が「山ボーイ」に扮し、モデルとして参加。自然に囲まれた芝生広場をステージに、秋冬の新品を着こなし楽しく紹介しました。

会場では、初心者向けの登山や山ヨガプチ体験、アウ

トドア料理体験なども行われ、集まった「山ガール」「山ボーイ」たちは新緑の山々に囲まれて楽しいひとときを過ごしました。

福山市から訪れた参加者は「山ガールスタイルがとてかわいかった。次回はもっと大きなファッションショーを開催してほしい」と話していました。



▲視線を集めるモデル

世界的指揮者が被災地を勇気付ける 庄原ゲリラ豪雨災害被災地支援コンサート

 **REPORT 2**


▲体全体でリズムを刻む大植さん

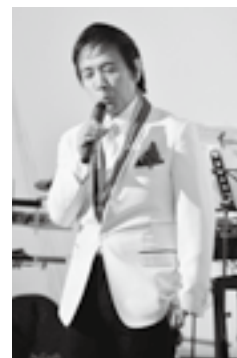
広島市出身でハノーファー(ハノーバー)北ドイツ放送フィルハーモニー名誉指揮者である大植英次さんによるコンサートが9月15日、西城ウイルホールで開催されました。

このコンサートは、昨年のゲリラ豪雨災害を経験した被災者や市民を、音楽を通して元気付けたい、という大植さんの提案で実現しま

した。

大植さんは、西城ブルーハーモニー吹奏楽団を指揮し、軽妙なトークを織り交ぜながら約2時間半楽曲を披露。会場いっぱいに詰め掛けた270人の観客は、世界的指揮者が振るうタクトに終始魅了されていました。

最後に大植さんのピアノ伴奏で、「ふるさと」を会場全員で合唱。みんなが元気をもらったコンサートとなりました。



格致高校に交換留学生がやってきた 庄原ロータリークラブ交換留学事業

 **REPORT 3**

庄原ロータリークラブは、国際ロータリー青少年交換プログラムに基づき、海外のロータリークラブと高校生の交換留学事業を行っています。

これは、高校生を一年間海外へ留学させることで、その国の言語を習得し、風習や文化などを直接体験し、相互に国際理解と親善を推進することを目的に行っているものです。

本年度この事業を利用して、庄原格致高校2年生の大澤春花さんが米国アリゾナ州のハイランド高校へ留学し、米国カンザス州マンハッタン高校からジェイコブ・ウイルソンくんが庄原格致高校へやってきました。

来年7月までの一年間、交換した高校生をロータリー

クラブ会員が自宅で預かり、通学のお世話をします。庄原ロータリークラブでは、主に4家庭がホスト家族となり、40人の会員がウイルソンくんの一年間の滞在と通学費用を負担します。

庄原ロータリークラブ青少年交換委員長の豊浦順海さんは「ウイルソンくんをまちで見かけたら気軽に声をかけてやってほしい」と話していました。



▲市長室を訪れたウイルソンくん(中央)

地元の宝を探り、学び、楽しみ、触れ合う 総領自治振興区が「地域探検」

 REPORT 10

総領町の里山に広がる貴重な文化・史跡・自然を巡る「地域探検」が8月7日、総領自治振興区の主催で開催されました。

今年で2年目となるこの企画に、小学生から大人まで32人が参加。下領家の八幡神社、亀谷の古墳・世界一のうす、黒目の洞窟、五領の砂が淵などをそれぞれ地元の方のガイドを受けながら見学して回りました。

黒目にある岩屋堂と平谷の2つの洞窟内では、冷房が効いているようなひんやりとした体感温度にみんな驚いていました。

五領の砂が淵では、大蛇にまつわる伝説を聞いた後、水深4～5mの淵にたたえた山水に触れ、子どもたちは「泳ぎたい」「飛び込みたい」と興味をそそられていました。

見学先の地元の方は、事前に危険個所の確認や周辺の草刈りを行うなど、この日のために準備。当日も、昼食として地元の夏野菜を使ったカレーライスやサラダを準備し、参加者を迎えました。

総領自治振興区生涯学習部の迫江茂幸部長は「今後も、よりふるさに親しみが持て、里山の息吹を発信できるように継続していきたい」と話していました。



▲砂が淵



▲地元ガイドの方の話を聞き入る参加者

親子で食の大切さを学ぶ おやこの食育教室

 REPORT 11


▲調理を楽しむ親子

調理を通じて豊かな心を身に付けることを目的にした「おやこの食育教室」が8月24日、高野福祉保健センターで開催されました。

高野町食生活改善推進員連絡協議会が主催するこの教室に、新市・下高保育所の年長児親子約35人が参加。高野でできた新鮮野菜を使った、トマトライス、

オクラのコンソメスープ、ヨーグルトサラダ、フルーツラッシーをみんなで調理しました。大人顔負けのキッズシェフに保護者は「こんなに上手にできるとは思わなかった」と驚いていました。

またこの日は、味付けの違う3種類の味噌汁を試食し、「塩分の取り方」について学びました。試食の結果、参加者の約3分の1の家庭が濃い目の味付けということが分かりました。参加した多くの保護者は「カロリーは気にしているが、塩分はあまり気にしていなかった。気をつけたい」と話していました。

福山の子どもたちが田舎暮らしを楽しむ 比和三河内地域が受け入れ

 REPORT 12

福山市西深津小学校の5年生43人が8月23日～26日、3泊4日の日程で比和町三河内を訪れ、農家民泊を体験しました。

これは、農村漁村での長期の宿泊体験から、「学ぶ意欲」「自立心」「思いやりの心」「規範意識」などを育み「力強い子どもを」との願いのもと、比和町三河内地域が取り組んでいるもので、都市部に住む子どもたちを4年前から受け入れています。

同地区の農家10戸へ4～5人ずつ分かれて2泊した子どもたちは、宿泊先のおじいさんやおばあさんからいろいろな体験談を聞いたり、農作業の体験や牛やカモと触れ合ったりしました。また、宿泊先の農家で作った野菜

をそれぞれ持ち寄りみんなで自炊。

新鮮野菜を食べた子どもたちは「野菜が甘い!」と驚き、自然の恵みを身体全体で感じながら、田舎の民泊体験を満喫していました。



▲三河内小学校体育館で記念撮影

大自然の中で心も身体もリフレッシュ 第23回吾妻山グリーンラリー

 REPORT 7

森林浴と体力づくり、自然とのふれあいをより深めてもらうことを目的に8月8日(はっばの日)、吾妻山グリーンラリーが開催され、町内外から総勢78人が参加しました。

参加者は、比和文化会館・博物館で木々や草を事前学習した後、貸し切りバスで吾妻山へ移動。休暇村吾妻山ロッジを起点とした、自然いっぱいの2.5kmのコースにチャレンジしました。コースには15のチェックポイントが設けられており、樹木検索表などで一つ一つの木々や草の種類を調べながら、ゆっくりとゴールを目指しました。

た。

子どもたちは「葉っぱの検索は難しかったけど、みんなで力を合わせたからゴールできた」「友達と協力してできたので楽しい一日になった」と話していました。



▲草木を調べる子どもたち

手作りイカダで西城川を探索 口南クラブ川下り

 REPORT 8


▲協力してイカダを作製

口和町の口南クラブが8月19日、自分たちが作製したイカダで西城川を鮎の里から塩谷までの約4kmの区間を川下りしました。

口南クラブは、小学生を対象とした自由参加の団体で10年前に結成され、口和町の自然を利用したキャンプや川原での釣りなど毎年いろいろなイベントを行っています。

今年は、子ども15人と保護者が参加し、自動車のチューブに2mほどに切った竹をロープで井形に固定す

るなど約1時間かけてイカダを6台作製しました。

その後、参加者は4人に分かれてイカダに乗り、鮎の里を出発。途中流れの早い場所や浅瀬、急カーブなどの難所を四苦八苦しながら、うまく通過していきました。

小雨が降る中、約3時間かけて全員が無事ゴール。

参加した子どもたちは「スリルがありとても楽しかった。来年もやりたい」と意欲を燃やしていました。



▲みんなでイカダ下り

水の中でスキンシップとコミュニケーションを深める ベビースイミング教室

 REPORT 9

西城温水プール水夢では9月から10月にかけて、市民を対象にベビースイミング教室を開催しています。

この教室は、水の浮力とリラックス効果を利用して、赤ちゃんと保護者のスキンシップとコミュニケーションを深めようというものです。

初回の9月1日には、首が据わったばかりの生後3カ月の赤ちゃんから3歳までの幼児と保護者16組、32人が参加。フジタドルフィンクラブ三次の上本和也さんの指導のもと、プールに入って足をバタバタさせたり、たかいたかいたりして楽しく過ごしていました。

参加した保護者は「子どもが水を怖がらずとても喜んで」「小さいときから水に慣らせておきたいので次回

も参加したい」と話していました。

次の開催日は10月15日(土)です。参加をご希望の方は、西城支所市民生活室保健福祉係(☎0824-82-2124)まで。



▲「たかいたか〜い」。喜ぶ子どもたち